5　由美子さんの学級では、関心のある方言について調べ、発表する学習に取り組んでいます。次は由美子さんがまとめた**【発表原稿】**です。これを読んで、あとの問いに答えなさい。

【発表原稿】

私が選んだ言葉は、阿波弁の「えっとぶり」です。

みなさんは「えっとぶり」という言葉を知っていますか。

お年寄りが話しているときに「えっとぶりやなあ」などと言っているのを耳にしたことがあるのではないでしょうか。この言葉は、「えっとぶりにおうたけど、げんきにしよったで。」とか、「えっとぶりやなあ。どないしよんえ。」というように使います。祖母の家に行ったときに言われると、「帰ってきたんだ」と実感できる、私の大好きな言葉です。

では、「えっとぶり」とは、どのような意味でしょう。

（クラスメイトに答えてもらう）

そうです。「えっとぶり」とは「久しぶり」という意味です。

「長い間」という意味の「えっと」に、「ぶり」がついて「えっとぶり」。この「えっと」は、「やうやく」という言葉が次のような時代変化を経て、生まれたものだとされています。

やうやく（ようやく）→ やうやくと（ようやくと）→ やうやっと（ようやっと）→ やっと・えっと

実際にどのくらいの人がこの言葉を知っていて使っているかを調べるために、二年一組全員と職員室の先生方にアンケートをとりました。

この資料を見てください。二年一組の二十七人のうち、この言葉を知らないと答えたのは一人でしたが、実際に使うと答えたのは三人でした。先生方二十三人では、すべての人が知っていて、実際に使っているのは十八人でした。先生方では、若い人ほど使わないという答えが多かったです。

また、「えっとぶり」と「久しぶり」とのイメージの違いを尋ねると、「久しぶり」に比べて「古くさい」といったマイナスのものもありましたが、大部分は、「えっとぶり」の方が「ほっとする」「温かい」「やさしい」「ふるさとに帰ったという感じ」という肯定的な回答でした。これは、阿波弁全体のイメージとも重なると思います。テレビの映像などで、アンジェラ・アキさんが阿波弁を使っている姿を見て、親しみを感じた人も多かったのではないでしょうか。

この調査から、「えっとぶり」という言葉を含む阿波弁については、プラスのイメージをもっているけれど、若い人ほど使わない傾向にあることが分かります。私は、このままでは使われなくなり、将来消滅してしまう阿波弁もあるのではないかという危機感をもちました。

この学習を通して、今まで何気なく使っていた阿波弁の良さが少し分かり、もっとよく知りたいと思うようになりました。郷土の言葉である阿波弁を未来へ残していくために、大切に使っていきたいと思います。

1　由美子さんの発表について説明したものとして最も適切なものを**ア**～**エ**から選びなさい。

ア　客観性のある情報を根拠として、この言葉に興味をもった理由を説明している。

イ　この言葉が生まれた背景を、投げかけた疑問に答えるかたちで説明している。

ウ　聞き手の興味や関心を引き出すために、呼びかけや質問を交えて説明している。

エ　言葉のイメージが聞き手に伝わるように、一つの特徴的な例を用いて説明している。

2　由美子さんの**【発表原稿】**を読んだ先生は、次の資料を付け加えるように助言してくださいました。あなたは、この資料を付け加えることによってどのような点でよくなると思いますか。「という点でよくなる。」という言葉に続くように書きなさい。

複数の阿波弁についての年齢別の使用状況

と

という点でよくなる。

3　由美子さんは発表の準備として、次のような**【質問】**が出るのではないかと予想しました。あなたが由美子さんなら、この質問に答えるために、どのような資料を準備しますか。最も適切なものを、次の**ア**～**エ**から選び、その理由を**五十字以上、六十字以内**で書きなさい。

【質問】

発表の中に、「このままでは使われなくなり、将来消滅してしまう阿波弁もあるのではないか」とありましたが、「ほなけんど」とか「せこい」、「～じょ」などの阿波弁は、私たちの年代もよく使っています。この「えっとぶり」の調査だけで、「消滅してしまう阿波弁がある」ということができるのですか。

ア　どんな阿波弁を知っていてよく使うかをきいたアンケート結果
イ　過去と現在の複数の阿波弁の使用状況を比較した調査結果
ウ　今後阿波弁を残していきたいかどうかをきいたアンケート結果
エ　複数の阿波弁が県内のどの地域で使われているかを調べた調査結果

選んだ資料

理由

60

50

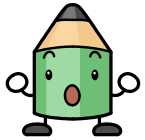
問題について

［話すこと・聞くこと］調べたことを発表する問題
（関心のある阿波弁について報告する）

伝えたい内容に説得力をもたせ、聞き手に的確に伝えるためには、様々な資料を収集し、そこから自分が必要としている情報を取捨選択したり加工したりすることが大切です。目的に応じて、どのような理由や根拠を基にして書いたり話したりするのが効果的であるかを考えて資料を作成するようにしましょう。

○　解答は、問題用紙に記入します。言葉や文章で答える問題は、条件に注意して書くようにしましょう。

○　解答を読んで、自分で答え合わせをすることもできます。文章で書く問題は、解答の例文を参考にしましょう。



解答

5

1　ウ

2　若い人ほど阿波弁を使わないということに説得力をもたせる（という点でよくなる。）

3　選んだ資料　イ

理由（例）過去と現在の使用状況を比較することによって、どのような言葉が消えつつあるかを知ることができると考えられるから。（五十五字）

＊　同様の内容が書けていればよい。